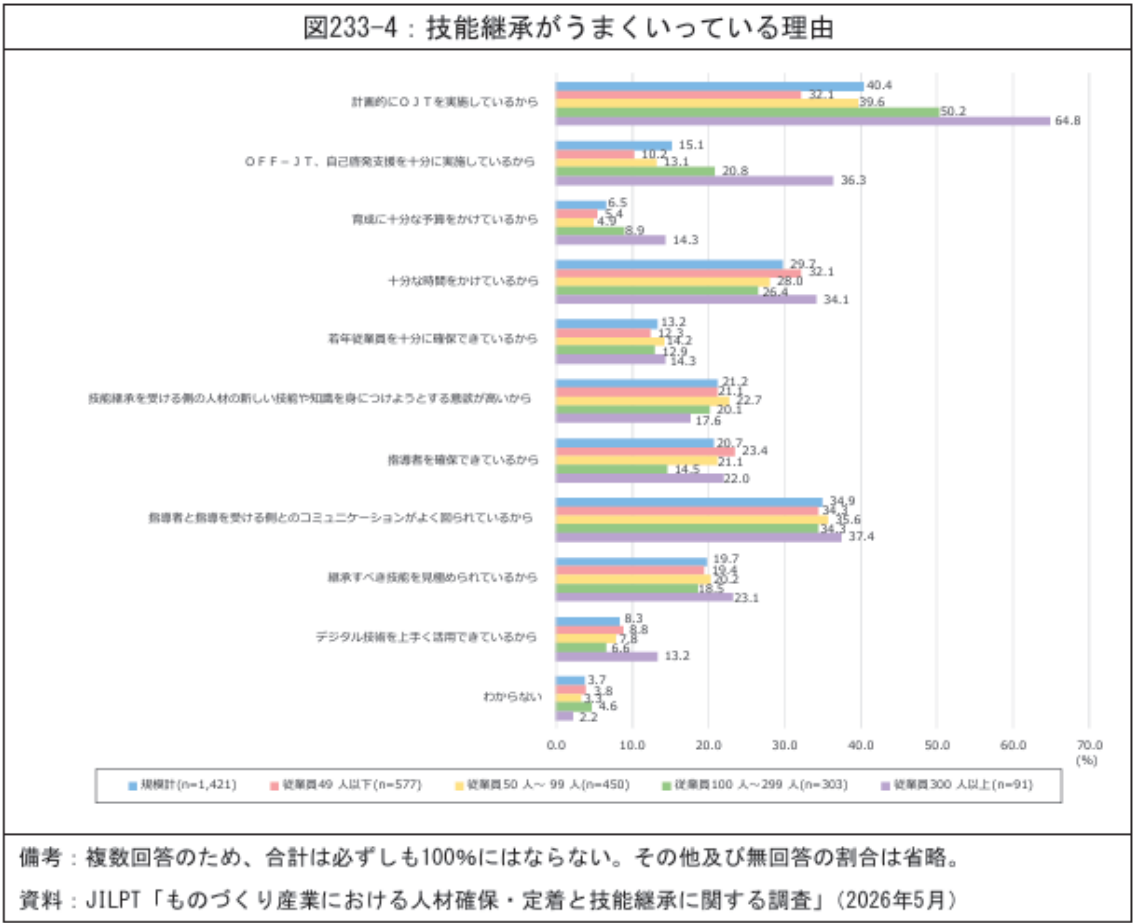
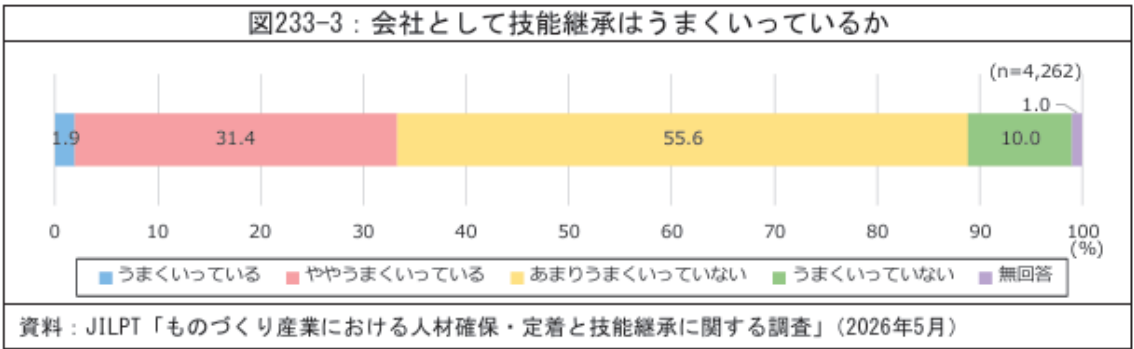
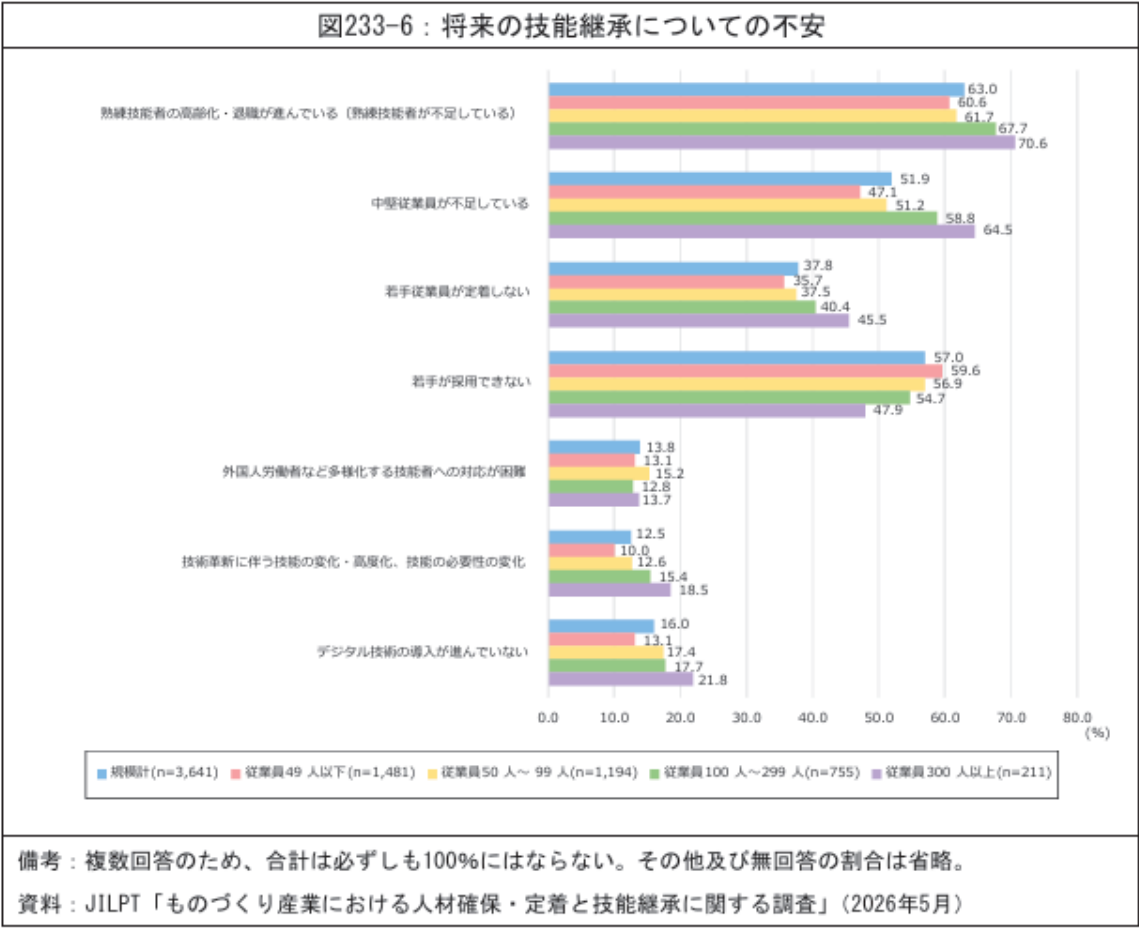
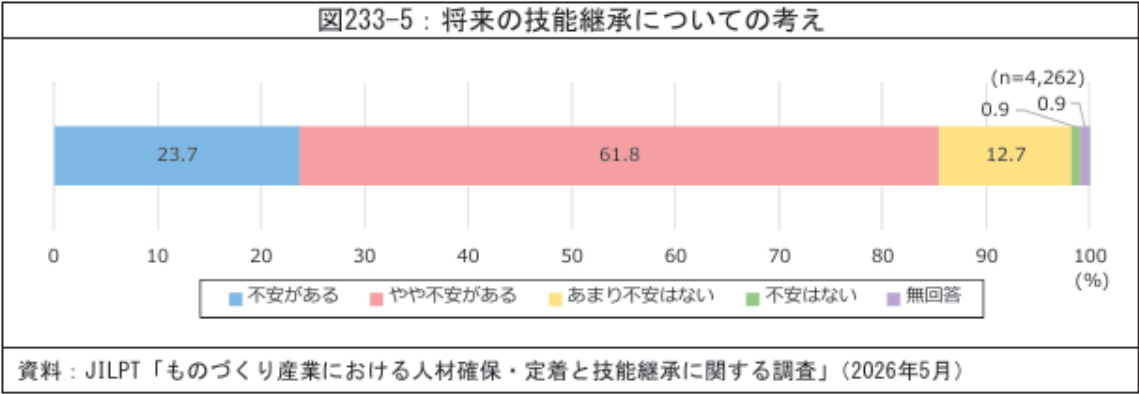


技能継承が「うまくいっている」と回答した企業は 1.9%となっており、「ややうまくいっている」と合わせて 33.3%となっている（図 233-3）。

「うまくいっている」又は「ややうまくいっている」とした企業全体では、技能継承がうまくいっている理由として、「計画的に OJT を実施しているから」の割合が最も高く 40.4%となっており、従業員 300 人以上の企業では 64.8%と特に割合が高い（図 233-4）。



将来の技能継承については、8割以上の企業が「不安がある」又は「やや不安がある」としており、「あまり不安はない」又は「不安はない」を大きく上回る状況にある（図 233-5）。「不安がある」又は「やや不安がある」とした企業では、「熟練技能者の高齢化・退職が進んでいる（熟練技能者が不足している）」、「若手が採用できない」など、多くの企業が人材確保に関する不安を挙げている（図 233-6）。



また、我が国の製造現場に蓄積されてきたデータの一つとして、ベテラン技術者等のノウハウ、技能等が挙げられるが、「ベテラン等のノウハウ見える化」を目的としたデータの取得・活用・効果の創出は、ほかの目的に比べ割合が低くなっていることが分かる（図 432-3）。ベテラン等のノウハウ見える化や技術・技能の継承に当たっては、7 割弱の事業者が「ベテラン等の知識や経験等の形式知化が難しい」を課題として挙げていた（図 432-4）

